

BECC JAPAN 2025

開催結果報告



2025年10月

 開催日

2025年8月27日(水)

 開催場所

東京大学生産技術研究所 An棟

 主催

気候変動・省エネルギー行動会議

 協賛

大阪ガス株式会社、東京ガス株式会社、PwCコンサルティング合同会社、電気事業連合会、東邦ガス株式会社、日本ガス体エネルギー普及促進協議会、西部ガス株式会社、積水ハウス株式会社

 後援

経済産業省、国土交通省、環境省、エネルギー・資源学会、空気調和・衛生工学会、地球温暖化防止全国ネット、省エネルギーセンター、日本家政学会、日本エネルギー学会、日本建築学会



2025年8月27日(水)10:30～17:00 会場開催

時間	プログラム
10:30 ～ 10:50	開会挨拶・来賓挨拶（経済産業省、国土交通省、環境省）
10:50 ～ 11:50	基調講演 西條辰義（京都先端科学大学 特任教授） 演題「フューチャー・デザイン：将来世代から感謝される社会のデザイン」（2階ホール）
12:00 ～ 13:30	昼休憩 ネットワーキングランチ「フューチャーデザイン体験」（2階ホワイエ）
13:40 ～ 14:50	テーマセッション「AI・ゲーミフィケーション・ナッジによる脱炭素コミュニケーション」 ※口頭発表（2階ホール）
15:00 ～ 16:00	ポスター発表（2階ホワイエ）
16:10 ～ 16:30	スポンサーセッション（2階ホール）
16:30 ～ 17:00	クロージングセッション・表彰式（2階ホール）
17:10 ～ 18:30	交流会（2階ホワイエ）

西條 辰義 先生

京都先端技術大学 国際学術研究院 特任教授



- ◆ 1952 年香川県生まれ。ミネソタ大学大学院経済学研究科修了。Ph.D.(経済学)
現職のほかに、大阪大学環境イノベーションデザインセンター特任教授、高知工科大学経済・マネジメント学群客員教授、同大学フューチャー・デザイン研究センター客員研究員を兼任。
気候変動枠組条約(UNFCCC)におけるIPCC第四次評価報告書・第三作業部会のリード・オーサーも務める。
- ◆ 専門は専門はフューチャー・デザイン、制度設計工学、実験経済学。
- ◆ 著書には『フューチャー・デザイン』(単著・日経BP 日本経済新聞出版)
『地球温暖化の経済学』(共著・大阪大学出版会)
『排出権取引』(共著・慶應義塾大学出版会) など多数。
- ◆ フューチャーデザインとは:
将来世代に大きな影響を与える意思決定を行う際、将来世代の利益のみを考える「仮想将来世代」の集団を構築し、現世代と交渉することで意思決定を行う枠組み。「現在の利得が減るとしても、将来世代を豊かにするならば、その意思決定や行動、そしてそのように考えること自体が私たちがより幸福にする」という人間の性質を「将来可能性」と定義し、それを発揮する社会の仕組みの設計・実験・実践を行っている。

タイトル:「AI・ゲーミフィケーション・ナッジによる脱炭素コミュニケーション」

企画趣旨:

近年、行動デザインとデジタル技術・AI等のテクノロジーを組み合わせることで、生活者の行動や意思決定に対応した相互的なコミュニケーションにより行動変容を促す試みが盛んに実施されている。

本セッションではそのような技術を用いたシステムの開発・実証事例を4件選定し、行動変容を促す現場での活用や応用に向けた展望を会場の皆様と考えていく場として企画した。

タイムスケジュール:セッション趣旨説明(2分)、各発表・質疑(15分×4)、全体討議(8分)

発表順	発表者	タイトル
S01	日室 聡仁 (NECソリューションイノベータ)	AIとのコミュニケーションによって環境配慮行動は促進されるのか？ ーごみ処理ゲームを題材とした検証ー
S02	杉浦 淳吉 (慶応義塾大学)	省エネ行動のゲーミフィケーションによる習慣化の試み 大学生を対象としたSNSによる情報発信とその効果
S03	小池 玲楠 (早稲田大学)	ナッジを組み込んだ情報提供ネットワークシステムの構築 フィードバックシステムの開発
S04	住吉 大輔 (九州大学)	オフィス在室者の省エネ行動変容を促進するBI-Techシステムの開発

ポスターセッション

番号	発表者	所属	タイトル	サブタイトル	テーマ
P01	増原 直樹	兵庫県立大学環境人間学部 准教授	兵庫県内の自治体におけるCO2排出構造と脱炭素政策形成プロセス		自治体・行政
P02	新井 智	横浜国立大学大学院 環境情報学府	環境キャラクターの有効性：キャラクターの擬人的認識の観点から		環境意識・ライフスタイル調査
P03	笹岡 恵梨	東京ガス 主任研究員	在宅避難時におけるエネルギーの備えに関する研究	実践者の特徴から探る防災行動変容促進のヒント	適応・防災
P04	高橋 舞	奈良女子大学人間総合文化科学研究科 博士前期課程2年	一般消費者を対象とした再生プラスチック製品の選択行動	年代, 性別, 購入場所および情報提示が与える影響	家庭・消費者行動
P05	貝増 匡俊	神戸女子大学 教授	ナッジ効果を活用したマイボトル用フレーバーの利用促進事例		家庭・消費者行動
P06	赤石 記子	東京家政大学栄養学部 准教授	台所家電製品の省エネ効果の高い使用方法の検証	～冷蔵庫および電気ケトルの使い方による省エネ効果～	家庭・消費者行動
P07	西尾 健一郎	電力中央研究所 上席研究員	足元における電力需要動向と節電実態		家庭・消費者行動
P08	平野 勇二郎	国立環境研究所 主幹研究員	脱炭素型ライフスタイル実現に向けたデマンドレスポンス導入のポテンシャル評価		家庭・消費者行動
P09	小林 浩人	日本オラクル Opowerソリューションコンサルティングリード	米国エネルギー事業者におけるマルチチャネルアプローチによるピーク削減の実践事例	時間帯別料金顧客のピーク削減最大化と満足度向上	家庭・消費者行動
P10	天野 晴子	日本女子大学 家政学部 教授	電気自動車（EV・PHEV）に関する生活者の意識と行動		家庭・消費者行動
P11	中野 一慶	電力中央研究所 社会経済研究所 上席研究員	ZEHの多面的便益への関心向上のきっかけは何か		環境意識・ライフスタイル調査
P12	坊垣 和明	東京都市大学 名誉教授	集合住宅における省エネ改修効果と居住者の意識・行動、エネルギー消費量の変化		その他の分野
P13	小林 翼	住環境計画研究所 研究員	家族のライフスタイル変化を取り入れたエネルギー需要変動モデルの検討	省エネ教育等のソフト対策の長期的な省エネ効果の推定	環境意識・ライフスタイル調査
P14	何 清怡	株式会社住環境計画研究所	心理要因と行動モデルを用いた夏季オフィス冷房負荷シミュレーション		オフィス・事業所・工場
P15	范 理揚	株式会社日建設計総合研究所 主任研究員	環境配慮行動を促す、ワーク・ライフスタイルに基づくCO2排出量可視化ツールの開発		その他の分野

テーマセッション・ポスターセッションの発表者表彰

BECC JAPAN 2025当日、会場において参加者投票を行い、テーマセッション・ポスターセッションの中から各部門ごとに最も評価の高い発表者を表彰した。

新規性部門

AIとのコミュニケーションによって環境配慮行動は促進されるのか？—ごみ処理ゲームを題材とした検証—
日室 聡仁(NECソリューションイノバータ株式会社、奈良県立大学)、安部 有樹(奈良女子大学)

概要

- 人間同士のコミュニケーションは環境配慮行動を促進することが知られている
- AIとのコミュニケーションでも環境配慮行動は促進されるのか？

実験

- 公開ゲームを環境配慮の文脈にアレンジした「ごみ処理ゲーム」を活用してAIとのコミュニケーション検証
- ゲームのラウンド5終了時にAIとのコミュニケーションの量を調査。AIとのコミュニケーションがある群とない群を比較して環境を検証

結果

- 対AIとのコミュニケーションによってゲーム内でのリサイクル量が増加した
- 対AIとのコミュニケーションでも環境配慮行動が促進される可能性がある

背景

人間同士のコミュニケーションは環境配慮行動を促進することが知られている。AIとのコミュニケーションでも環境配慮行動が促進されるのか？

「ごみ処理ゲーム」を活用して検証を検証

公開ゲーム「ごみ処理ゲーム」を環境配慮の文脈にアレンジした「ごみ処理ゲーム」を活用してAIとのコミュニケーションが環境配慮行動を促進するのを検証。

実験条件は各条件

2025/3/2(日)にYahooトラッドワザンを使用し、実験参加者を募集。オンラインゲーム「ごみ処理ゲーム」を題材とした検証。AIとのコミュニケーションのGPT-4oを利用。実験参加者にAIと対話していることを知らせずに実施する。

実験結果

対人/対AI/対人+AI	対人/対AI/対人+AI	対人/対AI/対人+AI
40人/40グループ	42人/42グループ	82人/82グループ
対人/対AI/対人+AI	対人/対AI/対人+AI	対人/対AI/対人+AI
対人/対AI/対人+AI	対人/対AI/対人+AI	対人/対AI/対人+AI

有効データ数

対人/対AI/対人+AI	対人/対AI/対人+AI	対人/対AI/対人+AI
対人/対AI/対人+AI	対人/対AI/対人+AI	対人/対AI/対人+AI
対人/対AI/対人+AI	対人/対AI/対人+AI	対人/対AI/対人+AI

AIとのコミュニケーションによって環境配慮行動は促進されるのか？—ごみ処理ゲームを題材とした検証—
日室 聡仁(NECソリューションイノバータ)

応用部門 (得票数同数で2件)

「見た目よりエコ」は本当か？消費者が選ぶ再生プラスチックの現実
データが示す年代・性別購買傾向と普及への鍵
高橋 舞(奈良女子大学)、立命館大学、北海道大学

はじめに

- 背景: プラスチックの環境問題が、EUの「グリーン Deal」や日本の「プラスチック資源循環戦略」により世界的に注目されている。
- 課題: 再生プラスチックの市場拡大には、消費者の認知と購買行動の促進が不可欠。
- 目的: 消費者の購買行動を促進するための施策を提案する。

手続き

- 地域: 2025年2月〜3月
- 対象: 18歳以上22歳未満
- 場所: 1) 大阪府大阪市中央区、2) 大阪府堺市東区、3) 大阪府堺市西区

実験設計

- 1) 前回は、前回の調査結果に基づき、再生プラスチックの認知度を高めるための施策を提案する。
- 2) 前回は、前回の調査結果に基づき、再生プラスチックの認知度を高めるための施策を提案する。

製品: 再生プラスチック製の容器、再生プラスチック製の容器、再生プラスチック製の容器

実験結果:

- 1) 再生プラスチック製の容器の認知度は、前回の調査結果に基づき、再生プラスチック製の容器の認知度を高めるための施策を提案する。
- 2) 再生プラスチック製の容器の認知度は、前回の調査結果に基づき、再生プラスチック製の容器の認知度を高めるための施策を提案する。

「見た目よりエコ」は本当か？消費者が選ぶ再生プラスチックの現実—データが示す年代・性別購買傾向と、普及への鍵—
高橋 舞(奈良女子大学)

ZEHの多面的便益への関心向上のきっかけは何か
電力中央研究所 中野 一慶

背景・目的

- ZEH (ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス) は環境だけでなく経済性やライフスタイル、快適性にも優れた住宅である。
- ZEHは、ZEHの多面的便益に対する関心の高まりがきっかけとなっている。

先行研究

- ZEHの多面的便益に対する関心の高まりがきっかけとなっている。

研究の着眼点

- ZEHの多面的便益に対する関心の高まりがきっかけとなっている。

調査概要

- ZEHの多面的便益に対する関心の高まりがきっかけとなっている。

結果・考察

- ZEHの多面的便益に対する関心の高まりがきっかけとなっている。

ZEHの多面的便益への関心向上のきっかけは何か
中野 一慶(電力中央研究所)

プレゼン部門

在宅避難時におけるエネルギーの備えに関する研究
実践者の特徴から探る防災行動変容促進のヒント
竹岡 恵梨(東京ガス)

研究の目的

- 在宅避難時におけるエネルギーの備えに関する研究。

調査概要

- 在宅避難時におけるエネルギーの備えに関する研究。

分析手法

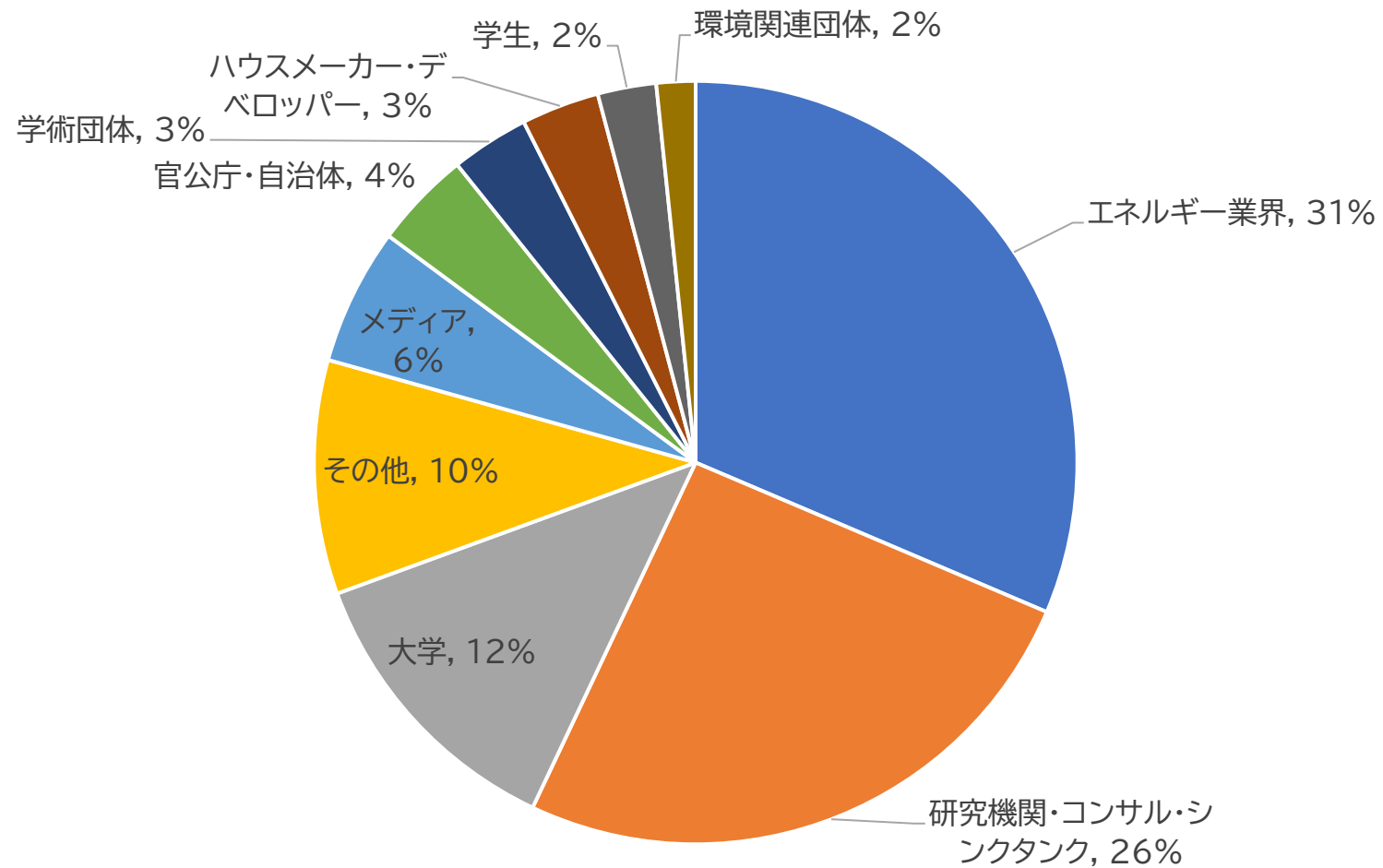
- 在宅避難時におけるエネルギーの備えに関する研究。

調査結果

- 在宅避難時におけるエネルギーの備えに関する研究。

在宅避難時におけるエネルギーの備えに関する研究—実践者の特徴から探る防災行動変容促進のヒント—
竹岡 恵梨(東京ガス)

BECC JAPAN 2025の参加者層



BECC JAPAN 2025 参加者属性(121名)

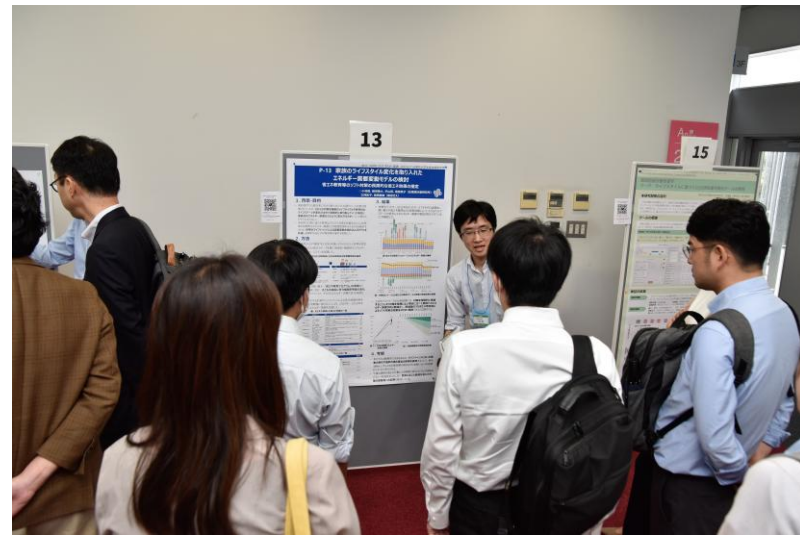
BECC JAPAN 2025の様子



開会挨拶



基調講演



ポスターセッション



テーマセッション



ネットワーキングランチ



クロージングセッション

🌿 BECC JAPANコンファレンスへの参加回数

- 75%はリピーター参加者であり、参加者の1/3は5回以上参加している。

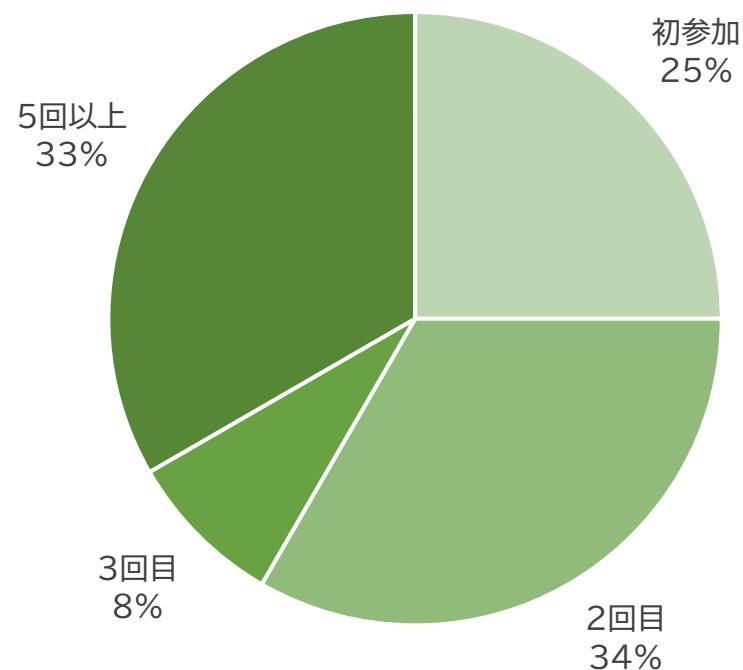


図. BECC JAPANコンファレンスへの参加回数

開催に関する情報源

- 初参加では「知人、発表者からの紹介」、2回目以降は「気候変動・省エネルギー行動会議からのご案内」が最も多い。

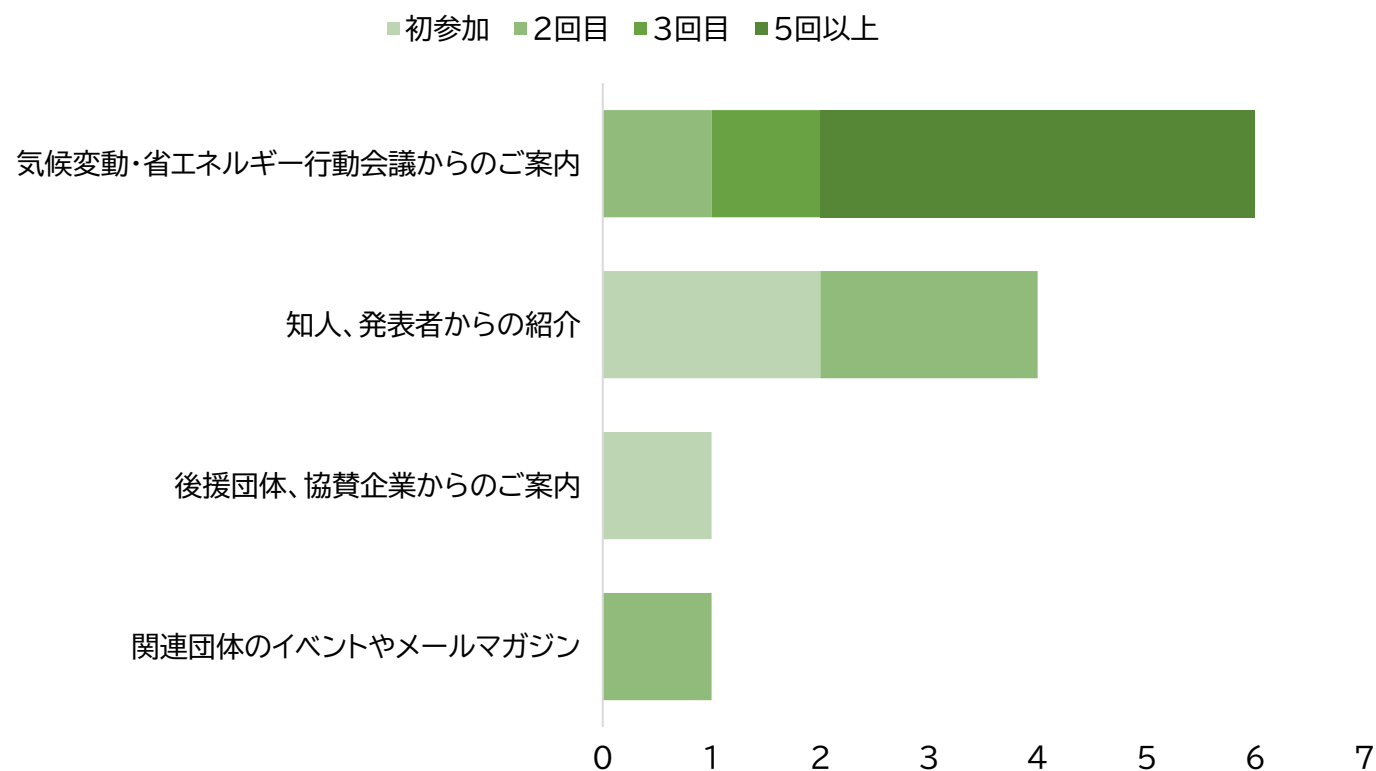


図. BECC JAPAN 2025の開催は何で知りましたか？

🌿 BECC JAPAN 2025で新たに知り合った人数

- ・ 8割以上が新たなネットワークを構築しており、1/3の参加者は10人以上と新たな知り合いを作っている。
- ・ 本コンファレンスが参加者の交流促進に有効であったことがうかがえる。

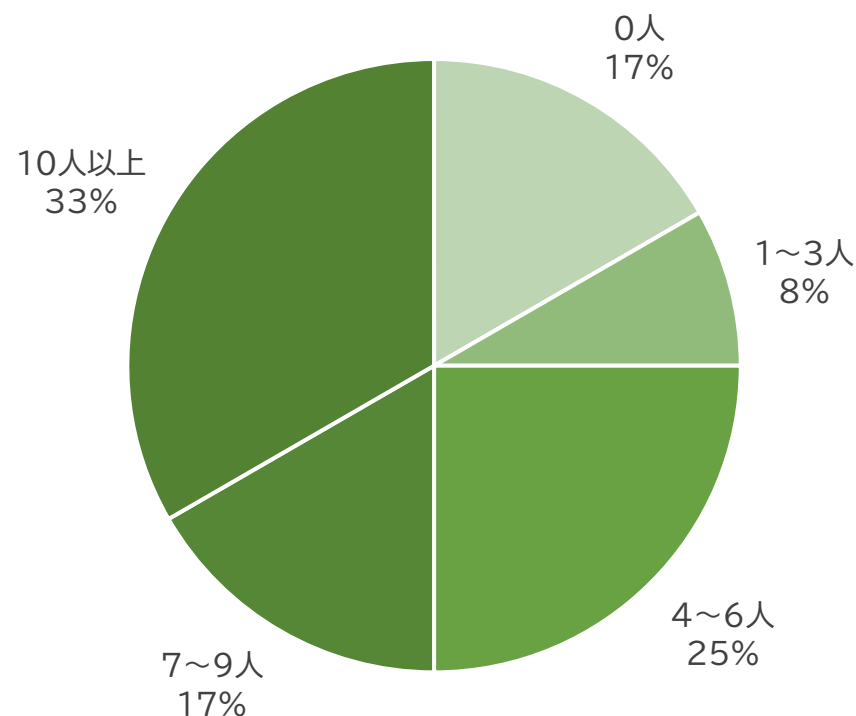


図. 今回のBECC JAPAN 2025で新たに知り合った人数

🌿 BECC JAPAN 2025の満足度／今後の参加意向

- BECC JAPAN 2025の満足度は「満足」、「やや満足」が75%。
- 今後のコンファレンス参加意向では「参加したい」、「やや参加したい」が全体の75%であった。

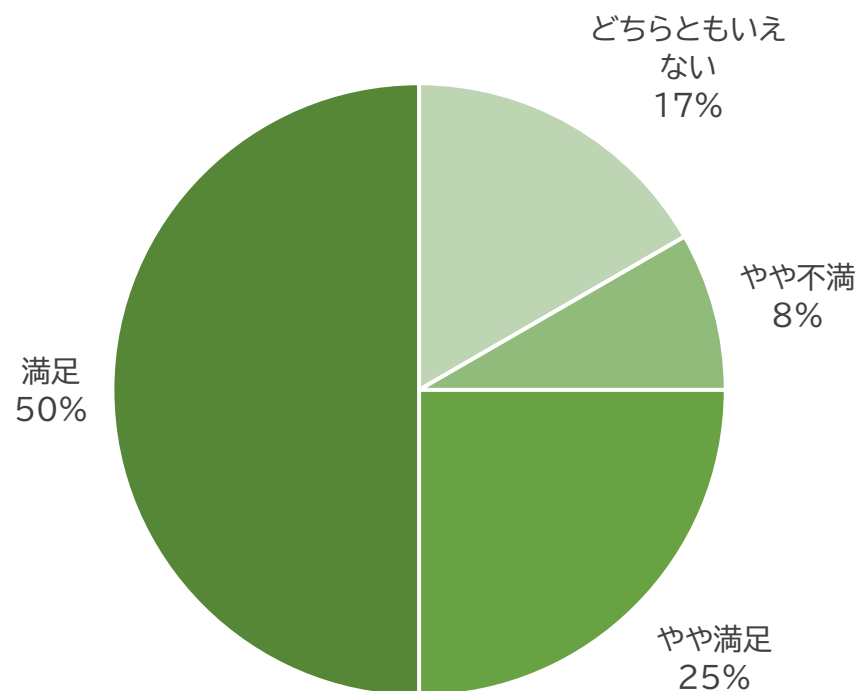


図. 今回のBECC JAPAN 2025の満足度

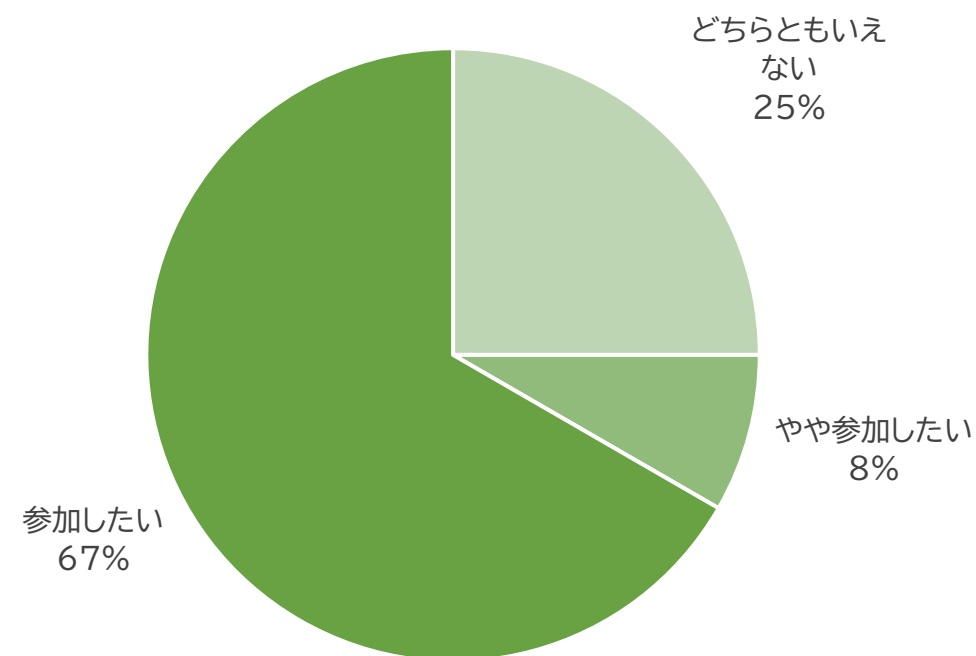


図. 今後のBECC JAPANコンファレンス参加意向

自由回答の概要

- 自由回答の内容を示す。

BECC JAPAN 2025へのご意見・ご感想や、今後開催にあたってのご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。

ポスターや事務局選定の口頭発表では、参加者の知見や意欲が十分に活かされていない印象を受けた。発表者と聴衆の関心がよりマッチする形(例: パラレル口頭発表)が増えると、交流が一層深まると感じた。slidoでの質疑は効果的だった。

素晴らしい会をありがとうございました。昨年度までは省庁の方は冒頭のあいさつのみのご参加が多かったかと思いますが、今年はネットワーキングランチにもご参加いただけたことで、お近づきになることができ、ありがたかったです。また、学生さんの発表が多かったことで、より盛り上がったと思います。次年度以降のさらなる発展を期待しています。

基調講演で「フューチャー・デザイン」のお話を聴講した後に、ネットワーキングランチで体感できるという流れが、他の学会にはなく大変貴重な経験になりました。ありがとうございました。

この度は貴重な機会をいただき、ありがとうございました。基調講演をはじめとした講演や他の参加者との交流の中で、様々な新しい視点に触れることができ、大変有意義な時間となりました。

今後、社会実装可能なモデルの提案を期待します。

参考資料

BECC JAPANコンファレンスの参加者数

過去開催の参加者、講演・発表件数実績

会議名	開催日程	開催場所	参加者数	講演・発表件数
BECC JAPAN 2025	2025/8/27	東京大学生産技術研究所	121名	21件
BECC JAPAN 2024	2024/9/19	東京大学生産技術研究所	155名	21件
BECC JAPAN 2023	2023/8/30	早稲田大学 西早稲田キャンパス	148名	36件
BECC JAPAN 2022	2022/7/27-28	前夜祭(会場+オンライン) 本会議(オンライン開催)	前夜祭:244名 本会議:210名	46件
BECC JAPAN 2021	2021/8/31	オンライン開催	267名	36件
BECC JAPAN 2020	2020/8/25	オンライン開催	234名	33件
BECC JAPAN 2019	2019/8/22-23	東京大学生産技術研究所An棟	241名	55件
BECC JAPAN 2018	2018/8/23-24	一橋大学 一橋講堂	211名	35件
BECC JAPAN 2017	2017/9/5-6	JA共済ビル カンファレンスホール	218名	39件
BECC JAPAN 2016	2016/9/6-7	慶應義塾大学 三田キャンパス南校舎	232名	43件
BECC JAPAN 2015	2015/9/8-9	一橋大学 一橋講堂	214名	35件
BECC JAPAN 2014	2014/9/16-17	東京大学 伊藤国際学術研究センター	249名	22件
第1回省エネルギー行動研究会 シンポジウム	2014/2/14	東京大学 工学部2号館	180名	3件

概要

行動科学の知見は、近年注目を集めており、公共政策分野にも広く応用されています。米国では、こうした知見を集約し、行動変容を促す効果的なアプローチを議論する場として、2007年からBECC(Behavior, Energy and Climate Change) Conferenceが開催されています。

BECC JAPANは、日本版BECCとして2014年に始まりました。環境・気候変動・省エネルギーに関する行動の理解と行動変容に取り組む人々が集まるコミュニティを目指しています。

毎年夏に開催するコンファレンスでは、多様な分野の専門家が集い、協働して持続可能な未来を目指すためのプラットフォームを提供しています。

主催

気候変動・省エネルギー行動会議

(事務局:株式会社 住環境計画研究所)



Mission

環境・気候変動・エネルギーに関する行動の理解と行動変容に取り組む人のコミュニティを形成すること。

Vision

多分野の研究者と、企業・自治体等に所属する行動変容の実践者等のBECC JAPANの参加者同士が、発表と意見交換を通じて互いに刺激し合うことで、革新的なアイデアや技術が生まれ、新たな協働プロジェクトが創出されること。

Value

環境・気候変動・エネルギーに関わる産官学メンバーの交流を促進し、協働を促進する場を作ること。

BECC JAPANの活動概要 ①BECC JAPAN コンファレンス

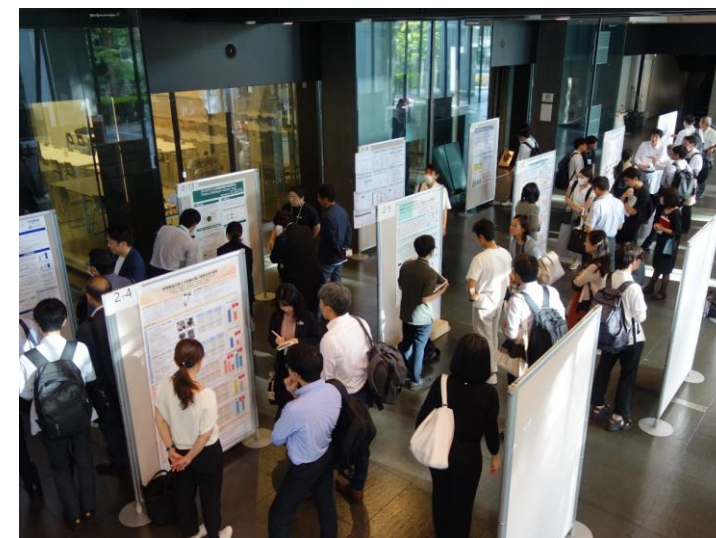
BECC JAPAN コンファレンスは、環境・気候変動・省エネルギーに関する行動の理解と行動変容に取り組む研究者や実践者が一堂に会して情報交換・議論を行う場として、2014年より毎年夏に開催。

BECC JAPAN コンファレンス

プログラム	概要
基調講演	- 関連分野の専門家による招待講演を実施。 - 海外の関連コンファレンスである欧州のBEHAVEや、米国のBECCの関係者も定期的に招集して、海外知見の国内展開も行っている。
一般公募による研究・事例発表	- 環境・気候変動・省エネルギー分野における人間の行動・意思決定に着目した研究成果や取り組み事例、アイデア等の発表を広く募集し、口頭発表やポスター発表を行う。 - 投稿された発表要旨は、有識者から構成されるプログラム委員会による審査を行うことで、発表内容の水準確保に努めている。
特別セッション	- 気候変動の動向や社会ニーズに応じて様々な内容やテーマを設定して開催。 - ゲーミングシミュレーションを行うワークショップや、スマートタウンの施設見学会、スタートアップや地方自治体を交えたパネルディスカッション、海外専門家の招待講演などを実施。
交流会	参加者同士のネットワーキングの場を提供。



基調講演



ポスター発表

BECC JAPANの活動概要 ②BECC JAPAN Plus

昨今のオンライン環境の充実化や、BECC JAPAN参加者の日常的な情報交換・ネットワーキングの場への期待を踏まえ、時勢やニーズに合わせたあり方を模索するための**Plus**な試みとして、2022年6月にオンラインコミュニティをSlack上に開設。

全国の官公庁職員等が運営する政策ナッジの推進拠点 NPO法人PolicyGarageと連携して運営。

Slackコミュニティ

チャットツールSlack上でのオンラインコミュニティ。環境と行動変容に関するイベント・記事・論文・報告書などの情報交換や、参加者間でのコラボレーションを募集するチャンネルを設定し、参加者間での交流を行う。



平山 翔（住環境計画研究所） 09:26

【To Make Progress on Climate Action, Pop 'Normative Bubbles', Behavioral Scientist (January 30, 2023)】

社会的証明や社会的圧力が気候変動対策の意図を最も強く予測するというので、これが本当だとするとEASTでいうところのSocialの部分をもっと打ち出す施策を試してみた方がよいのかなと感じました。

インパクトのある気候変動対策を行う意思を最も強く予測する因子は、他の人々がすでにその対策を行っているかどうかがどうかであることがあった。気候変動に関する信念、政治的志向、その他の属性は、一貫性のない、ほとんど有意差がなかった。経済的なインセンティブは人々をゴールラインに押し上げることができるが、彼らを得点圏に押し上げるのは社会的な影響力である。

https://behavioralscientist.org/to-make-progress-on-climate-action-pop-normative-bubbles/?mc_cid=7212d0c582&mc_eid=507abc42fc

Behavioral Scientist

To Make Progress on Climate Action, Pop 'Normative Bubbles' - By Brett Jenks -

Behavioral Scientist

Why measuring Americans' perceptions of others' beliefs about climate action could be a key for climate progress.

Written by

Liam Speranza

Est. reading time

5 minutes

1月30日



3 2

4 件の返信 最終返信: 6ヶ月前

情報交換チャンネルの例

オンライン交流会

コミュニティメンバーの知見共有や交流促進を図る場として、およそ3か月ごとに開催。行政セクターのナッジ活用や、環境省グリーンライフポイント事業参加者の取組共有などをテーマに、参加者からの話題提供とインタラクティブな意見交換を実施している。

BECC JAPAN Plus オンラインセミナー

参加無料

オンライン開催

ナッジ活用ガイド・チェックシートの監修者に聞く：

気候変動対策の 普及啓発にナッジを！



原 理史 氏

環境省中部地方パートナーシップオフィス、中部地方ESD活動支援センター
博士（環境マネジメント）、技術士（環境部門）



2025.5.21(水) 19:30-20:30

過去の発表テーマキーワード

 気候変動	 省エネ	 再エネ	 蓄エネ	 EV	 適応行動
 ZEH・ZEB	 AI・IoT	 情報提供	 Eコマース	 3R	 廃棄物
 教育	 政策	 海外動向	 ナッジ	 コミュニケーション	 自治体

BECC JAPAN コンファレンスのこれまでの開催情報



過去の開催概要

	2025年度	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度
開催方法	会場	会場 (オンライン併用)	会場	オンライン	オンライン
会場	東京大学 生産技術研究所	東京大学 生産技術研究所	早稲田大学 西早稲田 キャンパス 63号館	Zoom	Zoom
参加人数	121名	155名	148名	前夜祭244名 本会議210名	234名
基調講演者	西條 辰義 氏 京都先端技術大学 国際学術研究院 特任教授	山崎 亮 氏 studio-L代表 関西学院大学建築学部教授	佐々木 周作 氏 大阪大学 感染症総合教育研究拠点 科学情報・公共政策部門 行動公共政策チーム 行動経済学ユニット 特任准教授	Reuven Sussman氏 BECC 共同議長/ACEEE Behavior & Human Dimensions of Energy Efficiency部門ディレクター	太刀川 英輔 氏 NOSIGNER代表 慶應義塾大学特別招聘准教授
講演テーマ	フューチャー・デザイン: 将来世代から感謝される 社会のデザイン	気候変動×コミュニティ デザイン:持続可能なまち づくり	利他と利己の経済学	BECC and Beyond: Fighting Climate Change through Research and Community	進化思考:変異と 適応によって高める 共生的な創造性



ベック・ジャパン

第12回 気候変動・省エネルギー行動会議

BECC JAPAN 2025

行動変容から気候変動の解決を目指すコンファレンス



2025.8.27 [wed] 10:30-17:00

会場：東京大学 生産技術研究所 An棟 (東京都目黒区駒場)

参加費

早期割引価格 (7月28日まで) 一般: 14,500円 / 自治体職員・学生: 7,000円
通常価格 (7月29日以降) 一般: 19,500円 / 自治体職員・学生: 9,000円
交流会 3,000円 ※参加費にはランチ軽食費用が含まれます。

参加申込

以下のURLまたはQRから登録ページにアクセスして参加登録をお願いします。

<https://beccjapan2025.peatix.com>



申込締切
8.25 [mon]
まで

※交流会は8月20日(木)まで

基調講演

「フューチャー・デザイン：将来世代から感謝される社会のデザイン」
西條 辰義氏
(京都先端科学大学 国際学術研究院 特任教授)

■主催
気候変動・省エネルギー行動会議
■スポンサー (PR273866)
コニカ
大塚化学株式会社、東京ガス株式会社、
日立製作所株式会社
電気事業連合会、東京ガス株式会社、
日本ガス株式会社、日本ガス株式会社、
西日本ガス株式会社、東水ハウス株式会社
■後援 (PR273866)
経済省、エネルギー・資源庁、日本エネルギー学会、
気候変動・省エネルギー学、地球温暖化防止全国ネットワーク、
省エネルギーセンター、日本学術会議、日本経済学会



お問い合わせ

気候変動・省エネルギー行動会議事務局

(株) 住環境計画研究所 / Mail: info@seeb.jp Web: <https://seeb.jp/>

BECC JAPAN 2025

BECC JAPAN とは？

行動科学の知見は、近年ますます注目を集めており、公共政策分野にも広く応用されています。米国では、こうした知見を集約し、行動変容を促す効果的なアプローチを議論する場として、2007年からBECC (Behavior, Energy and Climate Change) Conferenceが毎年開催されています。

BECC JAPAN は、日本版BECCとして2014年に始まりました。環境・気候変動・省エネルギーに関する行動の理解と行動変容に取り組む人々が集まるコミュニティを目指しています。このコンファレンスでは、多様な分野の専門家が集い、協働して持続可能な未来を目指すためのプラットフォームを提供しています。



基調講演

「フューチャー・デザイン：将来世代から感謝される社会のデザイン」



講演者プロフィール

京都先端科学大学 国際学術研究院 特任教授。1952年香川県生まれ。ミネソタ大学大学院経済学研究所修士、Ph.D.(経済学)
オハイオ州立大学、カリフォルニア大学サンタバーバラ校、筑波大学社会学系、大阪大学社会学系、高知大学フューチャー・デザイン研究所、総合地球環境学研究所、一橋大学経済研究所を経て現職。気候変動枠組条約 (UNFCCC) におけるIPCC第四次評価報告書・第三作業部会のリードオナーも務める。専門はフューチャー・デザイン、制度設計工学、実験経済学。

著書には「フューチャー・デザイン」(単著・日経BP 日本経済新聞出版)
Future Design for Creating a World Worth Inheriting, Springer
[排出権取引] (共著・慶應義塾大学出版会) など多数。

フューチャー・デザインとは？

将来世代が私たちに「ありがとう」と感謝したくなる社会のデザインとその実践です。そのために、私たちが本来持つ「将来可能性」が発揮できる社会のデザインをめざします。将来可能性とは、「目の先の利益を犠牲にしても、将来世代のしあわせをめざすことで今の自分のしあわせを感じる能力」。そのような仕組みのひとつが「仮想将来人」です。

PROGRAM

10:30-10:50 開会挨拶・来賓挨拶
10:50-11:50 基調講演「フューチャー・デザイン：将来世代から感謝される社会のデザイン」 西條 辰義氏
12:00-13:30 ネットワーキングランチ
13:40-14:50 テーマセッション「AI・ゲームフィケーション・ナッジによる脱炭素コミュニケーション」
15:00-16:00 ポスター発表
16:10-16:30 スポンサーセッション
16:30-17:00 クロージングセッション
17:10-18:30 交流会 (会場：生産技術研究所 An 棟ホワイエ)
※プログラム構成及びタイムスケジュールについては変更の可能性がございます。

MAP



ACCESS

- 小田急線・東京メトロ千代田線/代々木上原駅より徒歩12分
- 小田急線/東北沢駅から徒歩8分、京王井の頭線/駒場東大前駅西口から徒歩10分
- 京王井の頭線/池ノ上駅から徒歩10分

※会場のAn棟へは東門(通称：駒場東大前)が最も近いです。アクセスや経路については生産技術研究所のWEBページよりご確認ください。

本コンファレンスの詳細については、BECC JAPANのWebサイトを随時更新しております。

<https://seeb.jp/eventcontents/5612>

ベック・ジャパン

第11回 気候変動・省エネルギー一行動会議

環境を変えてきた

いつだって消費者の行動が

会場：東京大学 生産技術研究所 An棟 (東京都目黒区駒場)

▼ 參加費

会場参加 一般:15,000円/自治体職員・学生:7,000円/交流会:3,000円

※基盤講演やポスター発表などプログラムの他、ネットワーキングランチ(食費別)に参加いただけます。加えて、アーカイブ配信の視聴も利用できます。

オンライン参加 …… 3,000円

※当日の一部プログラムのリアルタイム配信とアーカイブを視聴できます。

▼ 参加申込

以下のURLまたはQRからイベントページにアクセスして参加登録をお願いします。

<https://beccijapan2024.peatix.com>



申込締切
9.19 [Thu]
10:00まで
※交流会は9.13 [W] 23:59まで

▼ 專題講座

「気候変動×コミュニティデザイン：持続可能なまちづくり」

山崎 亮氏

(studio-L 代表/コミュニティデザイナー)

主編 氣候變動：橋工界今年一行動會議

後援 環境省
エネルギー・資源学会
空間調和・衛生工学会
省エネルギーセンター
地球環境允諾止全国ネット
日本エネルギー学会
日本家庭学会
日本建築学会
(注) 日本建築学会

編輯 大船カス株式會社
東京カス株式會社
電氣事業連合會
日本カス株式會社
日本カス精工ミルギ一曹及促進連
西船カス株式會社
東京ハウス株式會社
(東京本部編輯部)



お問い合わせ

事務局

気候変動・省エネルギー行動会議

(株)住環境計画研究所 / Mail: info@seeb.jp Web: <https://seeb.jp/>

行動科学の知見は、近年ますます注目を集めており、公共政策分野にも広く応用されています。米国では、こうした知見を集約し、行動変容を促す効果的なアプローチを議論する場として、2007年から BECC (Behavior, Energy and Climate Change) Conference が毎年開催されています。

BECC JAPANは、日本版BECCとして2014年に始まりました。環境・気候変動・省エネルギーに関する行動の理解と行動変容に取り組む人々が集まるコミュニティを目指しています。このコンファレンスでは、多様な分野の専門家が集い、協働して持続可能な未来を目指すためのプラットフォームを提供しています。

基調講演
「気候変動×コミュニティデザイン：持続可能なまちづくり」



講演者
山崎 亮 氏

講演者プロフィール

studio-L代表。関西大学大学院建築学部教授。コミュニティデザイナー。社会福祉士。
1973年愛知県生まれ。大阪府立大学大学院および東京大学大学院を経て、博士（工学）。
建築・ランドスケープ設計事務所を経て、2005年にstudio-Lを設立。地域の課題を地域に
住みかちと解決するためのコミュニティデザインに携わる。さまざまなワークショップ、
市民参加型の会計計画など、市民参加型のパークマネジメントなどに関するプロジェクトが多い。
著書に『コミュニティデザインの源流（太田昌弘）』、『確かなる日本（PHP新書）』。アヤナ
さんのデザイン（『東京建築』）、「新緑では人目をおかずに（建築クオース）」などがある。

著書一覧 <https://note.com/yamazakiryo/n/n5e1ea1f4979e>
YouTubeチャンネル <https://youtube.com/c/山崎亮99>

PROGRAM

10:30-11:00	開会挨拶・来賓挨拶
11:00-12:00	基調講演 「気候変動とコミュニティデザイン：持続可能なまちづくり」 山崎 亮 氏
12:00-13:30	ネットワーキングランチ
13:30-14:00	ライトニングトークセッション
14:00-15:50	ポスターセッション
16:00-17:00	特別セッション

17:10-18:30 交流会 会場 生産技術研究所 An棟 ホワイエ
※プログラムの内容は変更になる場合があります。

ACCESS

■小田急線・東京メトロ千代田線/代々木上原駅より徒歩12分
■小田急線/東北沢駅から徒歩8分。京王井の頭線/駒場東大前駅西口から徒歩10分
■京王井の頭線/池ノ上駅から徒歩10分

※会場のAn棟へは東門(最寄駅：駒場東大前)が最も近いです。アクセスや経路については生体技術研究所のWEBページよりご確認ください。



本コンファレンスの詳細については、BECC JAPANのWebサイトを随時更新しております。

<https://seeb.jp/eventcontents/5265>

第10回 気候変動・省エネルギー行動会議

BECC JAPAN 2023

Behavior, Energy & Climate Change Conference

BECC JAPANは2014年から今年で第10回を迎えました。
気候変動対策や省エネルギーのための行動変容に着目し、最新の調査研究・実証事業等をお届けします。
皆様のご参加をお待ちしております。

日時 2023年8月30日(水)
本会議 9:30～17:30 **交流会** 17:40～18:40

会場 早稲田大学 西早稲田キャンパス63号館
(東京都新宿区大久保)

JR山手線 高田馬場駅から徒歩15分
西武新宿線 高田馬場駅から徒歩15分
副都心線 西早稲田駅に直結
東西線 早稲田駅から徒歩22分



参加費 **本会議** [第10回特別価格] 一般／5,000円 自治体職員／3,000円 学生／3,000円
交流会 2,000円

参加申込 <https://beccjapan2023.peatix.com>



申込締切 2023年8月30日(水) ※交流会の申込締切は8月21日(月)



基調講演

佐々木 周作 氏「利他と利己の経済学」

大阪大学 感染症総合教育研究拠点 科学情報・公共政策部門 行動公共政策チーム
行動経済学ユニット 特任准教授

1984年、大阪府交野市生まれ。京都大学経済学部を卒業後、三菱東京UFJ銀行（現・三菱UFJ銀行）に入行。退職後、大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程にて、博士号（経済学）を取得。京都大学大学院経済学研究科特定講師・東北学院大学経済学部准教授を経て、現職。専門は、行動経済学・実験経済学。行動経済学会の理事とともに、環境省・経済産業省等の中央府省庁や地方自治体で有識者委員やアドバイザーを務める。主要業績に、「Majority size and conformity behavior in charitable giving: Field evidence from a donation-based crowd-funding platform in Japan」[Journal of Economic Psychology, 単著]や「Nudges for COVID-19 voluntary vaccination: How to explain peer information?」[Social Science & Medicine, 共著]等がある。

主催：気候変動・省エネルギー行動会議
共催：早稲田大学創造理工学部建築学科、早稲田大学カーボンニュートラル社会研究教育センター
後援：経済産業省（予定）、環境省、エネルギー・資源学会、空気調和・衛生工学会、省エネルギーセンター、地球温暖化防止全国ネット、日本エネルギー学会、日本家政学会、日本建築学会（6月30日現在）
協賛：大阪ガス株式会社、東京ガス株式会社、電気事業連合会、東邦ガス株式会社、日本ガス体エネルギー普及促進協議会、西部ガス株式会社、積水ハウス株式会社（6月30日現在）



問い合わせ先 **気候変動・省エネルギー行動会議**
事務局 (株)住環境計画研究所 / Mail: info@seeb.jp Web: https://seeb.jp/

本会議タイムテーブル

9:00～9:30	受付
9:30～10:00	開会挨拶・来賓挨拶（経済産業省、国土交通省、環境省）
10:00～11:00	基調講演（佐々木 周作 氏）
11:00～11:10	休憩
11:10～12:10	ポスターセッション①
12:10～13:10	ランチ休憩
13:10～14:10	スポンサーセッション
14:10～15:10	特別セッション（Dr. Brenda Boardman）
15:10～15:20	休憩
15:20～16:20	ポスターセッション②
16:20～16:30	休憩
16:30～17:30	Policy Garage コラボセッション
17:30～17:40	移動・休憩
17:40～18:40	交流会

※スケジュール・プログラムは変更になる場合があります。最新情報はBECC JAPAN webサイト（<https://seeb.jp/>）をご覧ください。

特別セッション

～エネルギー価格の高騰とエネルギー貧困～

概要	エネルギー貧困に関する研究の第一人者である英国オックスフォード大学のDr. Boardmanの講演（録画）の後、日本におけるエネルギー貧困の実態も探っていきます。 世界中でエネルギー価格が高騰する今ならではのテーマを取り上げたセッションです。
講演者	Dr. Brenda Boardman （オックスフォード大学 Environmental Change Institute 名誉リサーチフェロー）

Policy Garage コラボセッション

～加速する自治体環境ナッジの取り組みと、セクターを越えた協働～

概要	自治体、NPO、BECC JAPANそれぞれの立場から、環境ナッジの取り組みや、行政と他セクターとの協働について語っていただきます。 行政の方はもちろん、行政との協働に少しでも関心のある方必見のコラボセッションです。
登壇者	加藤 優里 氏（NPO法人PolicyGarage理事／行動デザインチーム） 高木 佑介 氏（横浜行動デザインチーム（YBit）副代表）
モデレーター	平山 翔 氏（住環境計画研究所 副主席研究員）



問い合わせ先 **気候変動・省エネルギー行動会議**
事務局 (株)住環境計画研究所 / Mail: info@seeb.jp Web: https://seeb.jp/